

5. 多文化共生について（問10～問12）

問10 あなたは、今までに「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか。

【あてはまるものを1つ】

（n=2,771）

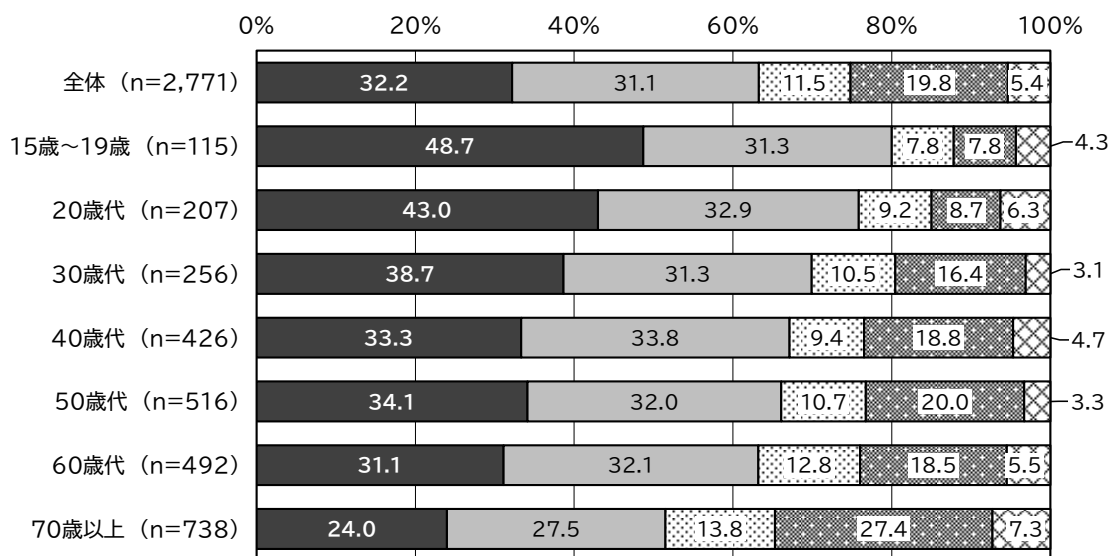
（1）全体的傾向

「聞いたことがあります、意味も理解している」と回答した人の割合が32.2%と最も高くなっています。次いで「聞いたことはあるが、意味はあまり理解していない」が31.1%となっています。

（2）年代別にみた特性

「聞いたことがあります、意味も理解している」と回答した人の割合は若い年代ほど高くなる傾向にあり、15歳～19歳で48.7%と他の年代と比べて高くなっています。

一方、「聞いたことがない」と回答した人の割合は、70歳以上が27.4%と他の年代と比べて高くなっています。



■ 聞いたことがあります、意味も理解している

■ 聞いたことはあるが、意味はあまり理解していない

■ 聞いたことはあるが、意味はほとんど理解していない

■ 聞いたことがない

■ わからない

問11 豊橋市には22,445人(令和8年4月1日時点)の外国人市民が共に暮らしています。
お住まいの地区に外国人市民が増加することをどう感じますか。

【あてはまるものをすべて】
(n=2,717)

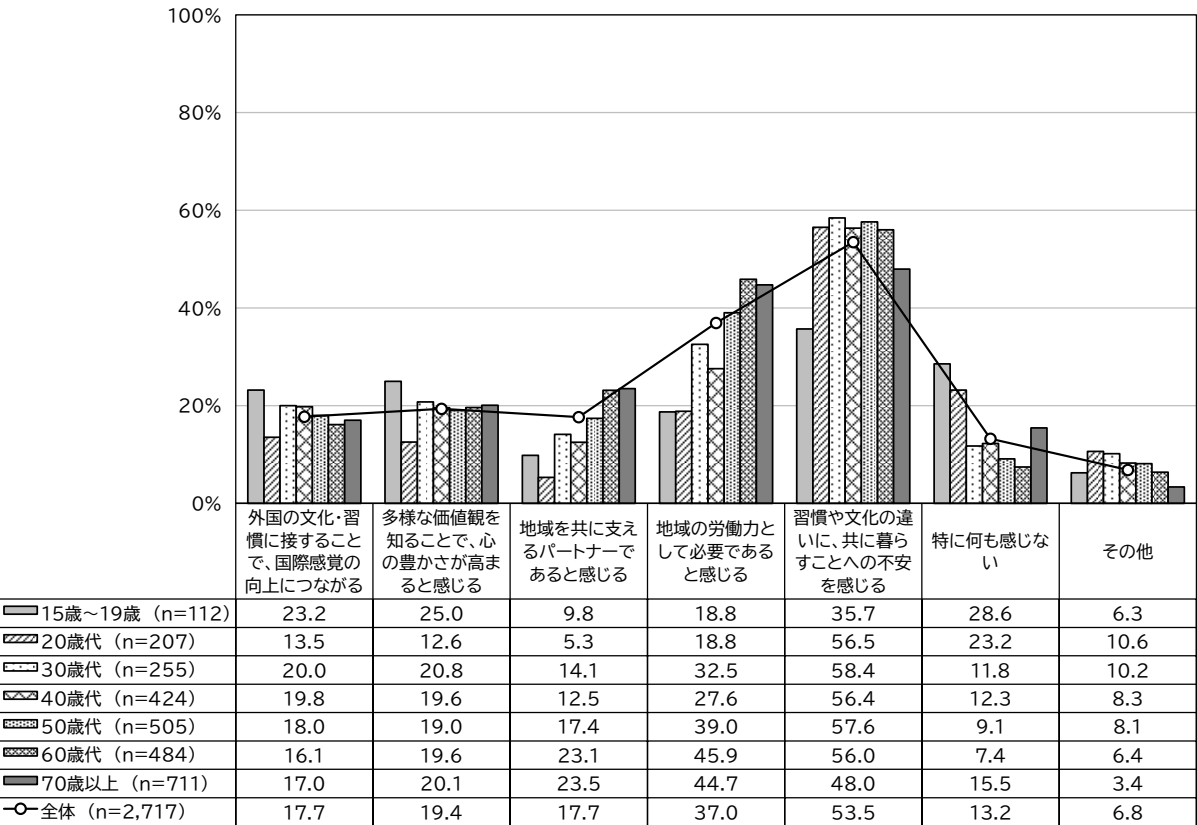
(1) 全体的傾向

「習慣や文化の違いに、共に暮らすことへの不安を感じる」と回答した人の割合が53.5%と最も高くなっています。次いで「地域の労働力として必要であると感じる」が37.0%となっています。

(2) 年代別にみた特性

すべての年代で、「習慣や文化の違いに、共に暮らすことへの不安を感じる」と回答した人の割合が35.7~58.4%と最も高くなっていますが、15歳~19歳では、昨年と比べて14.3ポイント減少しています。

また、「地域の労働力として必要であると感じる」と回答した人の割合は年代が高いほど概ね高くなる傾向があり、60歳代以上では4割を超えています。



問12 外国人市民と共に暮らしやすい社会にしていくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

【あてはまるものをすべて】

(n=2,675)

(1) 全体的傾向

「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が83.0%と最も高くなっています。次いで「外国人市民のための相談体制の充実や、多言語での情報提供」が44.7%となっています。

(2) 年代別にみた特性

すべての年代で、「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が78.2~85.3%と最も高くなっています。次いで「外国人市民のための相談体制の充実や、多言語での情報提供」、「外国人市民への日本語の学習機会の提供、外国人市民の児童・生徒の教育の充実」となっています。

